

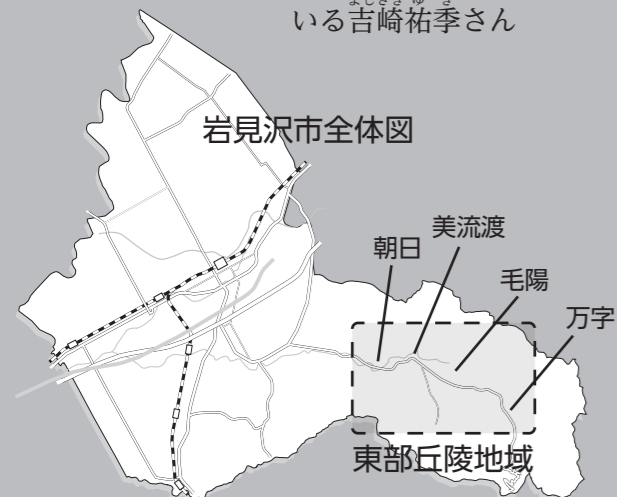
岩見沢市地域おこし推進員

市は平成 27 年度より「地域おこし推進事業」に取り組み、朝日、美流渡、毛陽、万字などの東部丘陵地域を活動地域に「地域おこし推進員」を配置しています。

この事業は、国の「地域おこし協力隊」制度を活用したもので、市外の方を「地域おこし推進員」として任用し、地域資源の発掘および振興に係る支援や、地域活動への参加および当該活動に対する支援、移住定住・交流事業の企画支援といった地域おこしを行うものです。



昨年7月から活動している吉崎祐季さん



かみいゆうた 上井雄太

岩見沢市地域おこし推進員

札幌市内の高校を卒業後、弘前大学へ進学。

在学中、半年間カナダへ語学留学。

卒業後、東北で農機販売会社に勤めた後に、青年海外協力隊となり、フィリピンに2年間赴任し、平成 28 年 3 月に帰国。

平成 28 年 6 月より市地域おこし推進員として活動中。

みんなで“一緒に”地域おこし

～東部丘陵地域の魅力・地域の思いを形に～

昨年の広報いわみざわ8月号に、「地域おこし推進員」の特集があったことを覚えていますか？今年6月に、上井雄太さんが新たに着任し、岩見沢市の地域おこし推進員は2人となりました。

「地域おこし協力隊」制度を活用している自治体は、平成 27 年度で9府県 664 市町村もあり、2,625 人が活動しているそうです。今月号は、上井さんがなぜ岩見沢市を選んだのか、どんなことをしてみたいのかなどを聞きました。また、地域おこし推進員が活躍する、東部丘陵地域の魅力も併せて紹介します。

岩見沢市を選んだ理由

岩見沢市が自分にとってなじみのある地域だったことが決め手の一つです。親戚が近くに住んでいるため、岩見沢市には小さいころから頻りに遊びに来ていました。小学生の時には「スパ・イン メープルロッジ」に泊まった覚えがあります。

平成 28 年 3 月末に2年間のフィリピンにおける JICA の青年海外協力隊の活動を終えて帰国し、フィリピンで得た経験を少しでも日本で還元すると同時に両国の懸け橋になればと考えていました。そんな時、青年海外協力隊経験者向けの求人サイトを見て最初に目に入ったのが、岩見沢市での地域おこし推進員の募集案内だったので、タイミングに運命を感じ、申し込みました。

※ JICA：独立行政法人国際協力機構。政府開発援助（ODA）の実施機関の一つとして、開発途上国への国際協力をしている。

東部丘陵地域の印象

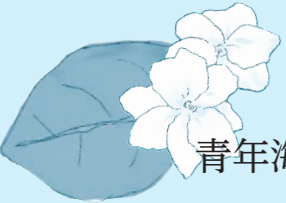
朝日に住んで、9月で3カ月程になりますが、日々、山に囲まれ、空気がおいしく、自然の力が感じられる地域だと感じています。

朝、目が覚めると、目の前に広がる緑、窓を開ければ鳥のさえずり、そこに響く朝を知らせるサイレン、

都会ではまず感じるできない空間があり、人間の本质に触れる機会を与えてくれる地域だと思います。

特に、そういった環境に住むことによって、良い影響を色濃くもらっていることが感じられたのは、地域に住む子どもたちからです。彼らももっている大人や子どもに対する触れ合い方は、自然体そのものだと感じています。

時間を忘れて活発に遊び回る姿や遠くからでも聞こえる「お母さん！」という声。都会では感じるものが少なくなっている、生命力のような、人間の根本的なものに強く影響する環境が、この地域にはたくさんあると思います。



青年海外協力隊での経験

青年海外協力隊として赴任していたのはフィリピンのTiwiという小さな田舎町で、有機野菜の普及活動として、デモファーム作成やセミナー開催などを行いました。言語や文化、気候の違いに苦労しましたが、温かくおらかな現地の人々に助けをもらいながら活動を終えることができました。多くの仲間ができましたし、学ぶことが多い2年間でした。フィリピンは日本と距離が近く、歴史的にもとても関係の深い国です。フィリピンとのつながりを、推進員の活動にも活かせればと思っています。



地域おこし推進員の活動を見ることができます

地域おこし推進員の活動は、フェイスブックや「まちめぐり通信」などで見ることができます。詳しくは市ホームページをご覧ください。



フェイスブック



地域おこし推進員・吉崎と上井の「まちめぐり通信」



岩見沢市街地から車で30分ほどの東部丘陵地域には、豊かな自然が広がっています。休日のリフレッシュに訪れてみませんか。

- ①美流渡みんなの森運動広場の桜
- ②朝日の不動明王堂の滝
- ③万字炭山森林公園のズリ山を登る階段
- ④万字交通センター前の紅葉
- ⑤果樹園のりんご
- ⑥東部丘陵地域で取れた夏野菜
- ⑦東部丘陵地域を望むスノーシューハイク

地域で取り組みたい二つのこと

価値ある環境を再認識して

私がこれから手掛けていきたいことの一つに、地域の人達に、自分達の地域の魅力を再認識してもらうことがあります。これまで、自己紹介する度、多くの人に「あそこは、何もないでしょう?」と言われます。また、テレビなどでも「過疎化、少子高齢化」というネガティブなイメージの言葉が「田舎」とセットで使われています。

確かに「田舎」と聞いて反射的に何となくネガティブなイメージを持つてしまいますが、現在は「田舎」における多くの取り組みや情報発信によって「田舎」のイメージが変わってきています。実際に住んでみると、一見「田舎」のこの地域にも「都会」にはない魅力がすぐに感じることができると、魅力がないのではなく強く認識されていないのだと思います。

もちろん、さまざまな品物であふれているショッピングモールや、流行の服などが販売されているショップが入った大きなデパートもいいのかもありませんが、ここには「山に

取り組みのゴールだと思います。そのためには地域一体となって取り組む必要があります。地域内外の連携を高めることが重要です。私も含め、外から移り住んできた人の意見は、長く住んでいる方々に新鮮さや刺激を与えるものになると思います。その意見が、変えてはくれないものや誇りにしているものと反応して、さまざまなことが生じると思えますが、話し合いなどの交流を通じて、最後には地域にとって良いものになればと思います。

挟まれ、空気がおいしく自然のちからが感じられる」という都会では感じることができない、価値ある環境があると私は思っています。

「思い」を形に出来る場を

もう一つは、地域内で話し合う場をつくることです。過疎化、少子高齢化は、この地域でもすでに大きな影響を及ぼしていて、それをどう捉えて、どうアクションを起こしていくかを絶えず考え、取り組みながら試行錯誤を繰り返さなければならぬ状況にあると思います。そのような中で、対策を地域内で話し合い、動き出している方々がいまいます。そういった方々と協力しながら、地域内の問題などを議論するために地域主体で集まり、計画し、実行していくことの手助けができればと考えています。

日常的にまちづくりについて話し合うことで、住んでいる方々主体のまちづくり活動が活発になると思います。まちにどのような魅力や課題があり、どのようなまちを目指すのかといった、皆さんの「思い」を形にすることができれば、それがこの

上井さんは、朝日を拠点として、美流渡を拠点とする吉崎さんと共に地域おこしに取り組んでいます。

市は、地域おこし推進員をサポートしながら、地域おこし推進事業に取り組んでいきます。

問合先 市企画室